

ようび はなし 曜日の話

かみ せかい とき いちにちめ ひかり ひる よる ふつ
神がこの世界をつくった時、1日目は、光と昼と夜をつくりました。2

かめ おおぞら みっかめ りく うみ りく くさ
日目には大空をつくりました。3日目には陸と海をつくりました。陸には草

き よっかめ うみ さかな りく とり いつ
や木をしげらせました。4日目には海に魚を、陸に鳥をつくりました。5

かめ むいかめ にんげん なのかめ
日目にはけものをつくりました。6日目には人間をつくりました。7日目、

かみ つか いちにち やす きょう きょうやく
神はすっかり疲れて1日ゆっくり休みました。これはキリスト教の「旧約

せいしょ そうせいき か でんせつ いっしゅうかん さいご
聖書」の創世記に書かれている伝説です。これにもとづいて1週間の最後

ひ にちようび い
の日を日曜日にしたと言われています。

じだい しゅうきょうじょう にちようび しゅ ひ きゅうそく ひ き
ローマ時代には、宗教上、日曜日を「主の日」として休息の日と決め

むいかかん いま わたし つか げつかすいもくきんど な
ました。ほかの6日間は今、私たちが使っている「月火水木金土」と名づ

つき しんわ かみ かせい すいせい もくせい きんせい
けられました。これは月と、ギリシア神話の神たちの火星、水星、木星、金星、

どせい わくせい なまえ
土星の惑星の名前からつけられました。

にほん めいじしんせいふ ようび と い はじ せいふ
日本では明治新政府が曜日を取り入れました。しかし、始め、政府はキリ

きょう きんし ようびせい つか きゅう
スト教を禁止していたので、曜日制を使いたがりませんでした。それで休

じつ いち ひ ろく ひ せいふ だい
日を一の日と六の日にしました。しかし、そのころ政府にやとわれていた大

がく がいこくじんきょうし にちようび きゅうじつ ようきゅう せいふ にちようび
学の外国人教師たちが、日曜日の休日を要求したので、政府は日曜日

きゅうじつ めいじくねん ねん がっこう
を休日とするようになりました。明治9年（1876年）には学校だけで

なく、^{くに けん}国や^{かんちょう}県などの^{にちようび}官庁も^{きゅうじつ}日曜日は^{どようび}休日、^じ土曜日は^{ごご}12時までで、^{やす}午後は
休みとなりました。

ヨーロッパを^{りょこう}旅行すると、^{にちようび}日曜日は^{ぜんぶ}全部の^{みせ}店が^{やす}休みで^か買い物^{もの}ができなくて
^{こま}困る、^{くに}ということが^{にちようび}あります。そういう^{はたら}国では^{わる}日曜日に^{こと}働くことは^{悪い}事な
のです。しかし^{にほん}日本は^{きょうこく}キリスト教^{にちようび}国^{かいてん}ではないので、^{にちよう}日曜日も^{あいてん}開店している
ところが^{にほん}たくさん^{しょうてん}あります。むしろ^{にちよう}日本の^{しょうてん}商店^{にちよう}や^{にちよう}デパート^{にちよう}にとっては^{にちよう}日曜
^び日は^{きゃく}客^くがたくさん^{みせ}来るので、^あ店を^あ開けて^ひおきたい^ひ日なのです。ですから、^ひほ
とんどが^{ようび}ほかの^{きゅうじつ}曜日を^{きゅうじつ}休日^{きゅうじつ}にしています。